

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目
島屋敷 英修	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	リハビリテーション概論 失語症Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 吃音 臨床作文 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ
東 早代	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	成人聴覚障害Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 臨床心理検査法 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 高次脳機能障害Ⅰ、Ⅱ
松田 知里	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語発達学 言語聴覚障害総論(小児) 言語聴覚障害概論(小児) 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 言語発達障害(知的障害) 言語発達学演習Ⅰ、Ⅱ 機能性構音障害Ⅰ、Ⅱ
河野 真紀	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 言語発達学演習Ⅰ、Ⅱ 脳性麻痺Ⅰ、Ⅱ 学習障害 器質性構音障害 小児聴覚障害Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 関係法規
木村 隆	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語聴覚障害総論(成人) 言語聴覚障害概論(成人) 言語聴覚障害診断学Ⅰ 運動性構音障害Ⅰ、Ⅱ 摂食嚥下障害Ⅰ、Ⅱ 言語聴覚障害学特論Ⅰ、Ⅲ

言語聴覚学科 (3年生)

専門課程(医療分野)

教育課程及び授業時数							
区分	科目	規定単位	計画 単位(時間)	1学年 単位(時間)	2学年 単位(時間)	3学年 単位(時間)	実務
基礎分野	人文科学	コミュニケーション学	2 (30)	2 (30)			
	社会科学	倫理学	2 (30)	2 (30)			
		心理学総論	2 (30)	2 (30)			
	自然科学	社会福祉学	2 (30)	2 (30)			
		統計学	2 (30)	2 (30)			
		生物学	1 (15)	1 (15)			
	外国語	物理学	1 (15)	1 (15)			
情報科学		2 (30)	2 (30)				
日常英語		4 (60)	4 (60)				
保健体育	医学英語	4 (60)		4 (60)			
	保健体育	2 (60)	2 (60)				
	小計	12	24 (390)	20 (330)	4 (60)		
専門基礎分野	基礎医学	医学総論	1 (15)	1 (15)			
		解剖学	2 (60)	2 (60)			
		生理学	2 (60)	2 (60)			
		病理学	1 (30)	1 (30)			
	臨床医学	内科学	1 (30)	1 (30)			
		小児科学	1 (30)		1 (30)		
		精神医学	1 (30)		1 (30)		
		リハビリテーション医学	1 (30)	1 (30)			
		耳鼻咽喉科学	1 (30)		1 (30)		
		臨床神経学	2 (60)		2 (60)		
	臨床歯科医学	形成外科学	1 (15)		1 (15)		
		臨床歯科医学・口腔外科学	1 (30)	1 (30)		1 (30)	
	音声・言語聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1 (30)	1 (30)		1 (30)	
		聴覚系の構造・機能・病態	1 (30)	1 (30)			
		神経系の構造・機能・病態	1 (30)		1 (30)		
	心理学	臨床心理学	1 (30)	1 (30)			
		臨床心理検査法	1 (30)		1 (30)		
生涯発達心理学		2 (60)	1 (30)	1 (30)			
学習・認知心理学		2 (45)		2 (45)			
言語学	心理測定法	1 (15)		1 (15)			
音声学	言語学	2 (60)	2 (60)				
音響学	音声学	2 (60)	2 (60)				
言語発達学	音響学	2 (60)	2 (60)				
	聴覚心理学	1 (15)	1 (15)			1 (15)	
	言語発達学	1 (30)	1 (30)				
	社会福祉・教育	1 (30)	1 (30)				
小計	社会保障制度	1 (30)	1 (30)				
	リハビリテーション概論	1 (30)	1 (30)				
	関係法規	1 (15)			1 (15)		
	小計	29	35 (960)	19 (555)	14 (375)	2 (30)	
専門分野	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論(成人)	1 (30)	1 (30)			
		言語聴覚障害学総論(小児)	1 (30)	1 (30)			
		言語聴覚障害学概論(成人)	1 (30)	1 (30)			
		言語聴覚障害学概論(小児)	1 (30)	1 (30)			
		言語聴覚障害学診断学Ⅰ	1 (30)		1 (30)		
	失語・高次脳機能障害学	言語聴覚障害学診断学Ⅱ	1 (30)			1 (30)	
		失語症Ⅰ	1 (30)	1 (30)			
		失語症Ⅱ	1 (30)		1 (30)		
		失語症Ⅲ	1 (30)		1 (30)		
		失語症Ⅳ	1 (30)		1 (30)	1 (30)	
		高次脳機能障害Ⅰ	1 (30)		1 (30)		
	言語発達障害学	高次脳機能障害Ⅱ	1 (30)		1 (30)		
		言語発達障害(知的障害)	1 (30)	1 (30)			
		言語発達障害(広汎性発達障害)	1 (30)		1 (30)		
		言語発達学演習Ⅰ	1 (30)		1 (30)		
		言語発達学演習Ⅱ	1 (30)			1 (30)	
	発声発語嚥下障害学	脳性麻痺Ⅰ	1 (30)		1 (30)		
		脳性麻痺Ⅱ	1 (15)		1 (15)		
		学習障害	1 (30)		1 (30)		
		音声障害学	1 (30)	1 (30)			
		運動性構音障害Ⅰ	1 (30)	1 (30)			
		運動性構音障害Ⅱ	1 (30)		1 (30)		
		機能性構音障害Ⅰ	1 (30)		1 (30)		
		機能性構音障害Ⅱ	1 (15)		1 (15)		
		器質性構音障害	1 (30)		1 (30)		
		摂食・嚥下障害Ⅰ	1 (30)		1 (30)		
	聴覚障害学	摂食・嚥下障害Ⅱ	1 (30)		1 (30)		
吃音		1 (30)			1 (30)		
小児聴覚障害Ⅰ		1 (30)	1 (30)				
小児聴覚障害Ⅱ		1 (30)		1 (30)			
小児聴覚障害Ⅲ		1 (30)		1 (30)			
成人聴覚障害Ⅰ		1 (30)	1 (30)				
成人聴覚障害Ⅱ		1 (30)		1 (30)			
成人聴覚障害Ⅲ		1 (15)		1 (15)			
補聴器・人工内耳	1 (30)			1 (30)			
臨床実習	視覚・聴覚二重障害	1 (15)			1 (15)		
	臨床実習	12 (480)	12 (480)			12 (480)	
	小計	44	48 (1500)	8 (240)	22 (615)	18 (645)	
選択必修分野	言語聴覚障害学特論Ⅰ	1 (30)	1 (30)			1 (30)	
	言語聴覚障害学特論Ⅱ	1 (30)	1 (30)			1 (30)	
	言語聴覚障害学特論Ⅲ	1 (30)	1 (30)			1 (30)	
	専門臨床特論Ⅰ(画像診断学)	1 (30)			1 (30)		
	専門臨床特論Ⅱ(薬理学)	1 (15)				1 (15)	
	専門臨床特論Ⅲ(基礎運動学)	1 (15)			1 (15)		
	専門臨床特論Ⅳ(栄養学)	1 (15)				1 (15)	
	見学実習	1 (40)	1 (40)				
	評価実習	3 (120)			3 (120)		
	症例演習	1 (30)				1 (30)	
臨床作文	1 (30)		1 (30)				
	小計	8	13 (385)	2 (70)	5 (165)	6 (150)	
	合計	93	120 (3235)	49 (1195)	45 (1215)	26 (825)	

科目名： 聴覚心理学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 飯千紀代子・大恵克俊
1単位

【授業概要】 聴覚の適当刺激は音波である。この科目ではまず、音の知覚を理解するために必要な知識として、我々の身体が音の情報処理をどのように行っているかについて概要を述べる。次に「言語聴覚士のための聴覚心理学」という観点から、聴覚の心理物理学について解説する。

【到達目標】 聴覚心理について物理学的側面・心理的側面の両方を理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	音、聴覚器官、聴覚と信号	大恵
2	マラー効果、可聴範囲、音の大きさ・高さ	大恵
3	音の正体、マスキング現象	大恵
4	代用発声法および人工喉頭に関する研究の動向	大恵
5	聴覚心理学とは	飯千
6	音の三要素	飯千
7	マスキング	飯千
8	様々な聴覚現象	飯千
9	定期試験	大恵・飯千

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚士テキスト 第3版」(医歯薬出版) 独自の資料

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 関係法規(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 河野 真紀・久保 裕男
1単位

【授業概要】 言語聴覚士法と、臨床に必要な関係法規を学ぶ。

【到達目標】 言語聴覚士法を理解し、国家試験および病院業務に対応できるようになること。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	言語聴覚士法の成り立ち	河野
2	総則 免許	河野
3	業務 罰則 言語聴覚士法施行規則	河野
4	免許 業務	河野
5	社会保障制度Ⅰ	久保
6	社会保障制度Ⅱ	久保
7	社会保障制度Ⅲ	久保
8	定期試験	河野・久保

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

「言語聴覚士国家試験出題基準」(医歯薬出版)

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】

定期試験100%

【実務経験】

病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加(河野)

科目名: 言語聴覚障害診断学Ⅱ(前期)

授業形態: 講義

担当教員: 島屋敷 英修・河野 真紘
1単位

【授業概要】 2年次の評価実習を基に実習報告を行う。報告内容に対し個別に指導を行う。また今後の実習に向けて言語聴覚障害に関する検査法を学ぶ。

【到達目標】 評価実習での経験を基に検査、訓練に対する知識や技術を身に付け、患者様に適切な検査や訓練が行える様にする。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	評価実習報告及び指導(学生による事例発表と検討会)①	河野
2	評価実習報告及び指導(学生による事例発表と検討会)②	河野
3	評価実習報告及び指導(学生による事例発表と検討会)③	河野
4	評価実習報告及び指導(学生による事例発表と検討会)④	河野
5	評価実習報告及び指導(学生による事例発表と検討会)⑤	河野
6	臨床実習のための指導・評価法・訓練法1 失語症	島屋敷
7	臨床実習のための指導・評価法・訓練法2 失語症	島屋敷
8	臨床実習のための指導・評価法・訓練法3 失語症	島屋敷
9	臨床実習のための指導・評価法・訓練法4 失語症	島屋敷
10	臨床実習のための指導・評価法・訓練法5 失語症	島屋敷
11	臨床実習のための指導・評価法・訓練法6 失語症	島屋敷
12	臨床実習のための指導・評価法・訓練法7 失語症	島屋敷
13	臨床実習のための指導・評価法・訓練法8 失語症	島屋敷
14	臨床実習のための指導・評価法・訓練法9 失語症	島屋敷
15	臨床実習直前指導 臨床実習への心構え	学科全教員

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 教員作成による独自の資料

【参考書名】

【評価基準】 事例検討会レポート100%

【実務経験】 病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 失語症Ⅳ(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 島屋敷 英修

1単位

【授業概要】 失語症のメカニズムや病態、検査法などの知識を基に評価、訓練計画、訓練、再評価ができるように失語症について総合

【到達目標】 失語症に関する基礎知識や検査法を理解し、DVDによる症例分析を行う。言語聴覚士の臨床の視点をしっかり持てるよう

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	1,2年次の学習の復習、及び評価実習の反省	島屋敷
2	症例DVDによるスクリーニング所見分析①(導入時)	島屋敷
3	症例DVDによるスクリーニング所見分析②(口腔分析)	島屋敷
4	症例DVDによるスクリーニング所見分析③(口腔顔面他 分析)	島屋敷
5	症例DVDによるスクリーニング所見分析④(発声発語器官 全身状態)	島屋敷
6	症例DVDによるスクリーニング所見分析⑤(学生によるスクリーニング場面)	島屋敷
7	症例DVDによるスクリーニング所見分析⑥(評価の観点)①	島屋敷
8	症例DVDによるスクリーニング所見分析⑦(評価の観点)②	島屋敷
9	症例DVDによるSLTA分析(記録)	島屋敷
10	症例DVDによるSLTA分析(症例報告書)	島屋敷
11	失語症の言語治療①訓練の方法	島屋敷
12	失語症の言語治療②訓練の実際	島屋敷
13	失語症の言語治療③様々な訓練	島屋敷
14	失語症の言語治療④訓練計画書の書き方	島屋敷
15	失語症の言語治療⑤頸部マッサージ	島屋敷
16	定期試験	島屋敷

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法シリーズ4 失語症」(建帛社)

「脳卒中後のコミュニケーション障害」(協同医書出版株式会社)

【参考書名】 「標準理学療法学・作業療法学。言語聴覚障害学 別巻 脳画像」(医学書院)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 言語発達学演習Ⅱ(前期)

授業形態： 講義・実技

担当教員： 松田 知里・河野 真紀
1単位

【授業概要】 小児の検査法を学び、実習及び臨床能力を養う。

【到達目標】 実際の臨床現場にて使用できるよう、知識と技術を高める。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	WISC-IVのアセスメント概論	松田
2	WISC-IVの演習・記録方法①	松田
3	WISC-IVの演習・記録方法②	松田
4	WISC-IVの演習・記録方法③	松田
5	WISC-IVの分析①	松田
6	WISC-IVの分析②	松田
7	WPPSIについて	松田
8	田中・ビネー知能検査のアセスメント概論	河野
9	田中・ビネー知能検査の演習・記録方法①	河野
10	田中・ビネー知能検査の演習・記録方法②	河野
11	田中・ビネー知能検査の演習・記録方法③	河野
12	田中・ビネー知能検査の分析	河野
13	ITPA言語学習能力診断検査	河野
14	KIDS乳幼児発達スケール/津守・稲毛式乳幼児精神発達診断について	河野
15	新版K式発達検査について/フロスティグ視知覚発達検査について	河野

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に検査の対象となる領域について確認を行う。(約0.5時間)
復習：手順や手技などを、確認しなおしておく。(約0.5時間)

【教科書名】 各検査マニュアル

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 授業態度100%

【実務経験】 病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 吃音(前・後期)

授業形態： 講義

担当教員： 島屋敷 英修

1単位

【授業概要】 吃音に関する基礎的知識を学ぶ。前期に基礎と症状を、後期に訓練法を中心に学ぶ。

【到達目標】 吃音についての正しい知識を身に付け、将来臨床が出来るようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	吃音者の実態 DVD視聴(成人吃音)	島屋敷
2	吃音者の実態 DVD視聴(小児吃音)	島屋敷
3	吃音者の心理と生活	島屋敷
4	吃音の定義 吃音とは何か	島屋敷
5	進展層とトラック	島屋敷
6	吃音のさまざまな症状と吃音者の状態	島屋敷
7	発吃時の吃音症状とそれを取り巻く要因	島屋敷
8	吃音の原因論(1) 歴史的研究	島屋敷
9	吃音の原因論(2) 歴史的研究と現代の考え方	島屋敷
10	指導・訓練法(1) 吃音訓練の考え方	島屋敷
11	指導・訓練法(2) 環境調整法・遊戯療法	島屋敷
12	指導・訓練法(3) 吃音軽減訓練 他	島屋敷
13	指導・訓練法(4) 統合訓練 他	島屋敷
14	吃音年表によるメンタル・リハーサル法	島屋敷
15	メンタル・リハーサルにおけるリラクゼーション	島屋敷
16	定期試験	島屋敷

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、指示されたテーマについて自分の考えを持つ(0.5時間)

復習:その日の授業内容についてノートをみながら振り返り、自らの意見を持つ(約0.5時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法シリーズ13 改訂 吃音」(建帛社)

【参考書名】 「間接法による吃音研究法」(三輪書店)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名: 補聴器・人工内耳(前期)

授業形態: 講義・実習

担当教員: 手塚征宏・下田代秀政
1単位

【授業概要】

聴覚系の構造・機能・病態について復習し、理解を深める。また補聴器・人工内耳の基本的な仕組みや聴覚機構に対する影理解することにより、補聴器・人工内耳の適応や合併症、フィティング、リハビリテーション等について臨床の現場で要求される知識および応用力を養う。

【到達目標】

単なる用語の暗記にとどまることなく、聴覚器官の解剖・聴覚生理・病態・疾患学と補聴器・人工内耳の基礎知識をつなげ、理論的に説明できる能力を身に着ける。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	体外装置・体内装置	手塚
2	人工内耳の仕組み・音声情報処理法	手塚
3	EAS・人工中耳	手塚
4	適応基準・医学的検査	手塚
5	聴覚検査・言語検査、その他の検査	手塚
6	人工内耳手術、EAS/人工中耳の適応と手術	手塚
7	術前リハビリテーション	手塚
8	人工内耳のプログラミング手法・装用指導、人工内耳装用効果の評価	手塚
9	まとめ	手塚
10	補聴器の歴史と構造①	下田代
11	補聴器の歴史と構造②	下田代
12	補聴器 周波数について①	下田代
13	補聴器 周波数について②	下田代
14	イヤーマールド作成①	下田代
15	イヤーマールド作成②	下田代
16	定期試験	下田代・手塚

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 独自の資料

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 視覚・聴覚二重障害(集中)

授業形態： 講義

担当教員： 良久 万里子

1 単位

【授業概要】 視覚・聴覚二重障害を理解し、視覚・聴覚二重障害者とのコミュニケーションスキルを高める。
視覚・聴覚二重障害者の困難やニーズに対しての多ポート力を高める。

【到達目標】 視覚・聴覚二重障害の患者様とのコミュニケーションスキルを高めると共に、視覚・聴覚二重障害者についての助言および他機関との連携を図れるようになる。
視覚・聴覚二重障害の生活に対する相談・助言・環境調整ができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	視覚・聴覚二重障害の定義(障害の状態、障害の程度による分類、発症時期・順序による分類)	良久
2	視覚・聴覚二重障害者のコミュニケーション方法	良久
3	視覚・聴覚二重障害者の困難とニーズ	良久
4	視覚・聴覚二重障害者の支援①(疑似体験等)	良久
5	視覚・聴覚二重障害者の支援②(福祉サービス等)	良久
6	視覚・聴覚二重障害者の移動介助方法	良久
7	視覚・聴覚二重障害者の実態(数、発症原因)	良久
8	視覚・聴覚二重障害者の社会資源の活用、まとめ	良久
9	定期試験	良久

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

配付資料

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】 定期試験80% 授業態度・提出物20%:積極的な授業への参加

科目名: 臨床実習(前・後期)

授業形態: 実習

担当教員: 島屋敦 英修
12単位

【授業概要】 病院や施設にて臨床実習を行う。

【到達目標】 臨床実習を通して、言語聴覚士の仕事全般を習得する。

【授業の進め方】

授 業 内 容
1) 病院にて合計12週の臨床実習を行う。
2) 実習内容: 臨床実習 I II
①言語聴覚士の評価・言語病理学的診断・訓練の実際について学習する。
②GOAL設定及び、言語訓練プログラムを立案し、その一部を担当する。
③ポイントを押さえた訓練記録・経過報告書の作成が適切にできる。
3) 目的: 実習指導者の指導・監督のもとに評価・言語病理学的診断、言語訓練プログラムの立案について学び、実際に学生が評価・訓練の一部を担当する。 さらに画像診断による検査所見の見方、その解釈、言語訓練記録のまとめ方、訓練経過報告書の作成などを学ぶ。加えて、ケースカンファレンスで症例報告の仕方を学習する。
4) 実習教育者 臨床実習教育者・専任教員

【授業外学修】 予習: 実習に臨む前に、該当する教科書・資料等を確認し、必要な実技等の確認を行う。(約1時間)
復習: 一日の実習内容を整理し、不十分だった点など理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】

【実務経験】

実習成績100%

病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名: 言語聴覚障害学特論Ⅰ(前期)

授業形態: 講義

担当教員: 木村 隆

1単位

【授業概要】 国家試験に向けて、科目別模擬試験及び国家試験を想定した模擬試験を実施する。誤った箇所はそれぞれ分析を行い、調べ学習をし、その後提出する。

【到達目標】 問題を解きながら、理解できない部分を整理し、苦手部分を自己分析できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	基礎(解剖学・生理学)	木村
2	基礎(小児科学・精神医学・リハビリテーション医学)	木村
3	基礎(耳鼻咽喉科学・臨床神経学)	木村
4	基礎(形成外科学・臨床歯科医学)	木村
5	基礎(病理学・内科学)	木村
6	基礎(臨床心理学・生涯発達心理学・心理測定法・学習認知心理学)	木村
7	基礎(言語発達学・医学総論・社会福祉・教育学)	木村
8	基礎(音声学・言語学)	木村
9	基礎(音響学・聴覚心理学)	木村
10	専門(失語症・高次脳機能障害)	木村
11	専門(言語聴覚障害学総論・聴覚医学総論)	木村
12	専門(言語発達障害・小児重複障害・吃音)	木村
13	専門(音声障害・小児構音障害)	木村
14	専門(補聴器・人工内耳・小児・成人聴覚障害)	木村
15	専門(成人構音障害・摂食嚥下障害)	木村

【授業外学修】 予習:教科書や過去問を中心に内容を理解する(3時間)
復習:間違った問題の分析を行い、正しく修正する(3時間)

【教科書名】 「言語聴覚士テキスト第3版」(医歯薬出版)

【参考書名】 「指定講習会テキスト第2版」「言語聴覚士国家試験過去問題集」(大楊社)

【評価基準】 総合評価(100%):15コマそれぞれ小テストを行った平均とする

【実務経験】 病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 言語聴覚障害学特論Ⅱ（前期）

授業形態： 講義

担当教員： 木村 隆

1単位

【授業概要】 運動性構音障害及び摂食嚥下障害の訓練について学ぶ。特に臨床実習で必要となる訓練技術を習得するために、目的方法をしっかりと理解した上で、学生間でロールプレイを交えながら、技術を習得する。

【到達目標】 運動性構音障害と摂食嚥下障害の訓練を理解し、実習で担当する症例に必要な訓練を選択し、実施できることを目標と

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	運動性構音障害の訓練1（呼吸機能に対する訓練）	木村
2	運動性構音障害の訓練1（呼吸機能に対する訓練）	木村
3	運動性構音障害の訓練2（発声機能に対する訓練）	木村
4	運動性構音障害の訓練2（呼吸機能に対する訓練：LSVTを中心に）	木村
5	運動性構音障害の訓練3（鼻咽腔閉鎖機能に対する訓練）	木村
6	運動性構音障害の訓練3（鼻咽腔閉鎖機能に対する訓練）	木村
7	運動性構音障害の訓練4（口腔構音機能に対する訓練）	木村
8	運動性構音障害の訓練4（口腔構音機能に対する訓練：CIセラピーを中心に）	木村
9	運動性構音障害の訓練5（発話の訓練：発話速度調整法を中心に）	木村
10	間接的嚥下訓練1（リラクゼーション・のどのアISMッサージ・唾液腺のマッサージ・嚥下反射促進手技・シャキア訓練・K-point刺激法）	木村
11	間接的嚥下訓練2（メンデルゾーン手技・息こらえ嚥下・咳嗽訓練・嚥下体操）	木村
12	間接的嚥下訓練3（バルーン訓練）	木村
13	直接的嚥下訓練1（横向き嚥下・交互嚥下・うなづき嚥下・複数回嚥下・一側嚥下・咀嚼訓練・氷なめ訓練・摂食類似刺激訓練）	木村
14	直接的嚥下訓練2（摂食ペース・一口量の調整・スライス法・嚥下の意識化・食事介助の工夫）	木村
15	嚥下食について（嚥下調整食分類・嚥下ピラミッド・とろみの分類）	木村
16	定期試験	木村

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書の単元を読む（0.5時間）

復習：その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める（0.5時間）

【教科書名】 「ディサースリア臨床標準テキスト」（医歯薬出版） 「スピーチ・リハビリテーション1、5」（インテルナ出版）

「嚥下障害 ポケットマニュアル 第4版」（医歯薬出版）

【参考書名】 独自の資料

科目名: 言語聴覚障害学特論Ⅲ(後期)

授業形態: 講義

担当教員: 木村 隆
1単位

【授業概要】 国家試験を想定した問題を解きながら、自分自身の苦手な分野を把握する。また誤りに対してどのような点を誤っているのかを調べ学習を行う。

【到達目標】 200問に対して5時間、集中して問題を解けるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	第1回模擬試験	木村
2	第2回模擬試験	木村
3	第1回卒業試験	木村
4	第3回模擬試験	木村
5	第2回卒業試験	木村
6	第4回模擬試験	木村
7	第3回卒業試験	木村
8	第5回模擬試験	木村
9	第6回模擬試験	木村
10	統一模擬試験	木村
11	第7回模擬試験	木村
12	第8回模擬試験	木村
13	第9回模擬試験	木村
14	第4回卒業試験	木村
15	第10回模擬試験	木村

【授業外学修】 予習:教科書や過去問を中心に内容を理解する(3時間)
復習:間違った問題の分析を行い、正しく修正する。(3時間)

【教科書名】 独自の問題

【参考書名】 「言語聴覚士国家試験問題(過去問)」「言語聴覚士テキスト 第3版」(医歯薬出版)

【評価基準】 卒業試験100%

【実務経験】 病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名: 専門臨床特論Ⅱ(薬理学)(前期)

授業形態: 講義

担当教員: 中甫木 直樹
1単位

【授業概要】 薬物に関する一般的な知識を身に着ける。特にリハビリテーション医学において汎用されている薬剤について、薬物の効果、作用機序、副作用、臨床での使用方法などを学び、臨床の現場において役立つ総合的な知識を学ぶ。また、薬理学を学ぶにあたり必要な、生理学、病理学の復習を兼ねた包括的な講義とする。

【到達目標】 薬理に関する基礎知識(生理学的または病理学的基礎知識を含む)を修得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	薬(薬剤)に対する意識・薬はどのように効いているのか	中甫木
2	薬の運命-吸収・分布・代謝・排泄-・薬の正しい飲み方・薬を水に溶かしてみる	中甫木
3	麻酔薬・睡眠薬・解熱鎮痛剤・向精神薬・アルコールの作用・抗てんかん薬	中甫木
4	抗パーキンソン病薬・認知症薬・自律神経作用薬・筋弛緩薬	中甫木
5	消化器に作用する薬	中甫木
6	心臓に作用する薬・動脈硬化の予防・抗高脂血症薬・血圧を下げる薬	中甫木
7	呼吸器に作用する薬	中甫木
8	まとめ及び国家試験対策	中甫木
9	定期試験	中甫木

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「超図解 薬はなぜ効くか」(医師薬出版)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名: 専門臨床特論Ⅳ(栄養学)(前期)

授業形態: 講義

担当教員:

西田 由江
1単位

【授業概要】 食事療養の実際を知り、チーム医療におけるリハビリテーション栄養の重要性と役割を学ぶ。

【到達目標】 栄養学の基礎及び疾患の食事療養の実際を理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	栄養食事療法の基礎 食と健康	西田
2	栄養食事療法とリハビリテーション	西田
3	リハビリテーション栄養ケアマネジメント①	西田
4	リハビリテーション栄養ケアマネジメント②	西田
5	診療報酬・介護報酬と栄養食事療法	西田
6	主な疾患の栄養食事療法	西田
7	NSTと地域連携	西田
8	嚥下食実習	西田
9	定期試験	西田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OT・STの為のリハビリテーション栄養」(医師薬出版)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名: 症例演習(後期)

授業形態: 講義

担当教員:

全専任教員

| 単位

【授業概要】 臨床実習における症例報告を行い評価・臨床での問題点を学びなおし、臨床能力の向上に努める。

【到達目標】 言語聴覚士の仕事の礎を築く。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	全専任教員
2	レジュメ作成①	全専任教員
3	レジュメ作成②	全専任教員
4	パワーポイントにて作成①	全専任教員
5	パワーポイントにて作成②	全専任教員
6	症例報告①	全専任教員
7	症例報告②	全専任教員
8	症例報告③	全専任教員
9	症例報告④	全専任教員
10	症例報告⑤	全専任教員
11	症例報告⑥	全専任教員
12	症例報告⑦	全専任教員
13	症例報告⑧	全専任教員
14	症例報告⑨	全専任教員
15	総評	全専任教員

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】 プレゼンテーション100%